歴史散歩

れきしさんぽ No6

年号のある遺物とその遺跡

色絵鳳凰文器台

平成元年、三本松町遺跡の調査で器台状の器（写真）が出土しました。皿に近い形をしていますが、見込には円形に銀化した剥落部分があり、ここに碗或いは筒状のものが接合されていたものと想像されます。高台は釉薬を大きく掻き取った蛇ノ目釉ハギです。また、上絵付けの段階での補修の跡も認められます。

文様は、呉須で鳳凰唐草文を染付し、余白部分に赤絵の具を加えています。外側は、赤絵で牡丹唐草文が描かれており、高台にはやはり同じ赤色で『万治四年己丑閏八月吉日』の文字が記されています。万治四年は1661年ですが、この年の４月には寛文に改元されていますので、改元以前に特別に注文された贈答品と推測されます。また、1661年の干支は『辛丑』で、『己丑』は誤って記されているようです。

この色絵器台に描かれる赤色は、いくぶん朱色味を帯びています。肥前の色絵磁器は1640年頃に始まりますが、1660年代の海外輸出時代に入ると、それらの製品に、この朱色味を帯びた赤が盛んに使われます。本品は、その初期的な事例として肥前陶磁史の上でも、また、出土した遺構の年代を決める上でも、重要かつ貴重な製品です。

見込　茶碗や皿の内側中央部の底面をさす。

高台　碗・皿などの底の基台をなす輪状の部分。もとは器物の安定化を図ることに始まる。形により、輪高台・三日月高台・蛇の目高台などがある。

三本松町遺跡

江戸時代の三本松町は、久留米城外堀の南東部に位置します。北端は東に延びる長町（現在の通町）と交わり、南は池町川（旧河川は今より南方）を境として、原古賀町（本町）へと続く南北の町並みです。

慶長6年(1601)、関ヶ原の戦い後、柳川城に入国した田中吉政は、次男の則政を久留米に置き、筑後一円を支配します。慶長8年(1603)には本城と久留米を結ぶ『柳川往還』が完成した模様ですが、その久留米側の起点がこの三本松町です。三本松町は城下町の中心的な一つで、江戸時代の最初から成立・発展してきた町です。また、昭和の初めには市内初の鈴蘭灯が設置されるなど、市内一の目抜き通りです。

本遺跡は、久留米城下町の一つである旧三本松町の町屋（家）跡です。今から10年前、久留米市では初めての近世調査が行われた遺跡で、三本松公園の改修工事に先立って実施されました。

調査の結果、道路とこの道路に面した建物跡・土坑・集石遺構・井戸などが発見されています。また、遺構の検出面には、火災の跡が認められ、江戸時代の大火を確認しています。

道路は、調査区の東側に2面が確認されています。タイル貼りの昭和期の道路とその下から江戸時代の道路が出土しました。建物跡は、この道路の西に3棟以上が確認されています。全て江戸時代の東西棟建物で、軒を接して並列しています。北端に位置する建物は11個の礎石が出土し、その配列から家屋構造が復元できます。幅1間半・奥行き5間の土間、4.5畳と6畳の「ミセ」、4.5畳の「ザシキ」、その他、台所などが推定されます。建物は火災に遭ったらしく、4寸角の柱痕跡が礎石の上にくっきりと残っていました。火災は、元禄9年(1696)に起こった白石火事と推測されます。文献にも残る城内外を焼尽くす大火災です。集石遺構は、建物の下に検出された拳大の石を敷き詰めたもので、建物の基礎状をしていますし、暗渠排水の施設も備えています。色絵の磁器はこの集石の中から出土したものです。

三本松町遺跡説明会

呉須	コバルト化合物を含む鉱物の名。黒く青緑色を帯びている。水に溶かして文様を描き、上から釉を掛けて焼くと藍色に変化する。
染付	白地の素地に呉須による絵付けを施し、上から透明の釉薬を掛けて焼き上げたもの。中国では青華（花）と言う。
干支	『えと』ともいう。十干・十二支。中国殷代に始まり、後漢の頃、両者を組合わせ60年を1周期とする紀年法として用いられた。十干を五行に配し、各々を『え（兄）』『と（弟）』に分け、これに十二支を配する。甲子は『きのえね』、乙丑は『きのとうし』と読む。

呉服町遺跡出土の護摩札

左の写真は、呉服町遺跡の土坑（廃棄坑）から出土した、長日息災を祈願する護摩札です。

頂部がわずか山形をなす略長方形で、基部の両端には釘孔があります。この護摩札は一般的な御札よりも一回り大きく長大なもので、全長が67.5㎝で、幅は上端で11.4㎝・下端部で10.0㎝、厚さ0.7㎝を測ります。板材は檜です。

三行にわたる墨書が記されていて、中央に不動明王の梵字であるカンマン（カーマン）を大きく描き、その下に『奉修不動明王護摩供長日息災増福祈所』と続きます。右脇には『正保二年高野山』、左脇には『三月吉日□明院』とあり、製作年月日や祈願所が判読されます。なお、正保２年は1645年で江戸時代前期にあたります。また、『災』の字は忌み嫌われることから、小さく書かれています。

護摩札は、現在も民家の神棚や商家の店内にしばし見受けられることがあります。滋賀の近江八幡を旅した際、古めかしい醫院の軒下にこれと良く似た護摩札を発見した時には、たいへん感動しました。と同時に、病院ということで奇異に感じた次第です。

本品は、高野山まで出向いて行って祈願し、持ち帰ったものか、同系列の末寺或いは山伏などによってもたらされたものか、その入手経路は定かではありませんが、当時の宗教観や信仰儀礼の一端が窺える貴重な資料と言えましょう。また、同一土坑から出土する陶磁器やその他の遺物の年代を知る上でも、重要な資料となっていることは言うまでもありません。

呉服町遺跡

呉服町遺跡は、江戸時代の初期から中期にかけての町屋（家）跡です。城下町久留米の本格的な建設は、元和７年(1621)有馬豊氏の入国以降、城郭の拡大整備と共に行われ、寛永年間（1624～44）までに、現在にも続く町並みの骨格が完成したと伝えられます。東面の城を南向きにし、城郭の南にも町屋を新しく建設したり拡張したもので、本遺跡の呉服町や魚屋町もこの南面に広がる町屋地区に位置します。

本遺跡は、平成７年、銀行建設に先立つ事前調査として実施しました。調査地は、久留米市庁舎（両替町遺跡）の道路を隔てた西隣にあたります。江戸時代では、呉服町と魚屋町の町境に相当し、共に屋敷地の裏庭部分に相当します。写真の下2/3が呉服町で、上が魚屋町です。上から1/3程の所に横方向（南北）に細い溝が見えますが、この溝が両町を分ける町境です。また、調査区の右隣（北側）は直ぐに両替町となっていますので、古絵図や明治・大正時代の地図でも調査地点が特定できます。

調査の結果、呉服町の部分では池状遺構・土坑・井戸・建物の柱や瓦敷き遺構などが、魚屋町では、土坑・井戸・便所・犬の埋葬などが検出されています。出土遺物は、近世陶磁器をはじめ、土師器・瓦質土器・瓦・土製品・木製品・石製品・金属製品・銭貨・動植物遺体などあらゆるものが出土しています。

田中吉政　関ヶ原の役の戦功で三河国岡崎から筑後国主に転じた。本城を柳川に置き、本・支城の修築や道路網の整備、有明海の干拓、河川の治水や利水など、数々の土木工事を精力的に行ない領内支配を確立した。

白石火事　江戸時代の久留米の二大火災の一つ。元禄９年(1696)、庄島（荘島）の塗師白石家から出火した大火。城下町の大半を焼き尽す。長町十丁目までの併せて3700軒が焼失。→享保11年(1726) の田代火事。

暗渠排水　地中に埋めまたは蓋をした排水路。

梵字　古代インド（サンスクリット）の文字。中国を経て伝来し、真言密教で重視された。曼陀羅や板碑の種字、諸種のシンボルとして用いられた。

高野山　和歌山県伊都郡高野町にある山。弘仁７年(816)、空海（弘法大師）が金剛峰寺を開山。以来、真言宗の本拠地として栄えた。

呉服町の北端に位置する池状遺構は、この遺跡の中で一番大きく古い遺構です。新町の建設や拡充によって、少なくとも1630年代迄には埋まったものと考えています。ここからはスッポンや鯨・イルカの骨が出土していますし、両替町遺跡でも同規模の遺構を検出しています。キリシタン瓦が出土した遺構です。

護摩札は中央の大きな楕円形の土坑から出土しました。東西3.4m・南北2.6m、深さ約１mの規模です。埋土からは焼けた木片が多く出土し、火災の際の廃棄土坑（ゴミ穴）と考えています。

井戸は魚屋町に多く見られます。水を多く使う魚屋の職種がここでは想像されます。

便所は、径1.3mの円形の掘方内に、直径85cmの大きな木桶を据え付けた施設です。底から『吉田』の銘を持つ真鍮製の糸抜きが出土しました。糞甕を廃棄する際に銭貨を入れることがしばし見られるますので、その代替えとして用いたものかも知れません。

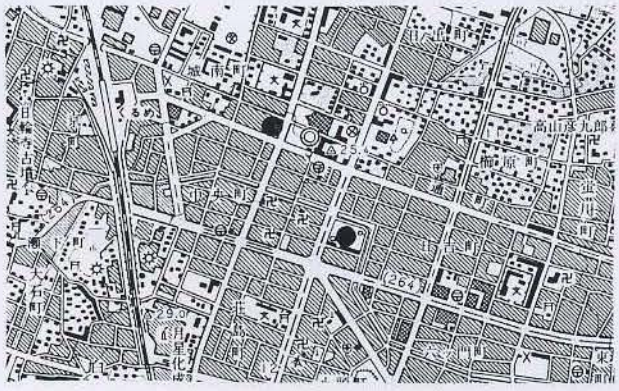
犬は中級犬に相当する雄犬です。頭を南にし、顔を西に向けた状態で、筵に包み丁寧に埋葬されていました。余程可愛がっていた犬でしょうか。それとも、綱吉の『生類憐みの令』で大事大根に葬られたお犬様であったのでしょうか。

呉服町遺跡

埋葬された犬

有馬豊氏　久留米有馬藩の祖。元和７年(1621)、田中家の断絶で、丹波福知山から北筑後に入国。以後、幕末までの250年間にわたり、久留米城は有馬家の居城となる。

生類憐みの令　貞享４年(1687)、５代将軍徳川綱吉が発した生類殺生禁止令。綱吉が戌年だったので、犬に対しては特に厳しく、江戸中野の犬小屋で養われた野犬だけでも10万頭に達し、費用は江戸市民に課せられた。違反者に対する処罰が厳しく、悪政として世人の不満を買う。宝永６年(1709)に綱吉が死ぬまで続いた。



発行機関名　久留米市教育委員会

〒830-8520　久留米市城南町15-3

文化財保護課　0942(30)9225

久留米市埋蔵文化財センター　0942(34)4995

久留米文化財収蔵館　0942(38)6194